



同窓の絆を深め寮歌熱唱



夕陽会函館市支部 副支部長 永井貴之

(昭和六十三年卒)

## この十年を振り返って

平成の時代が二十五年目に入り、いわゆる「四半世紀」の節目となつたが、自分自身も、この四月で教育行政に入つて丸十年という区切りを迎える。よもやこれほど長期間にならうとは思つていなかつたが、振り返ると多くの方に支えられ、貴重な経験をさせていただいている。

平成十五年四月。単身で日高教育局のある浦河町へ。寂しさと右も左も分からぬ焦りの中で、自称「何をやってもダメ子ちゃん」の毎日。そんな自分を励ました。当時の課長や班主任、管内の管理職の皆さん。（その中に、同じ副支部長の三島校長がいたのも不思議な縁）北海道指導主事会でも、いわゆる「会社」のつながりで、夕陽の一体感を強く感じた。

平成十八年。胆振教育局へ異動。自宅への距離が半分になつたが、仕事の量と責任は倍増。「仕事ダイエット」で健診に引つかることもなくなつた。ここでも、胆振連合・室蘭・苫小牧の各支部にお世話になり、ラグビー部の先輩との再会にも支えられた。

平成二十年。五年ぶりに自宅に戻る。とはいえば、仕事のフィールドは渡島であるので、松前から長万部まで駆け回る毎日。その中で、夕陽会大懇親会で、函館の先生方の中に身を置く居心地のよさは格別であつた。

平成二十年。五年ぶりに自宅に戻る。とはいえば、仕事のフィールドは渡島であるので、松前から長万部まで駆け回る毎日。その中で、夕陽会大懇親会で、函館の先生方の中に身を置く居心地のよさは格別であつた。

翌年、函館市教育委員会教育指導課へ。リアルな課題とダイレクトに向き合う毎日。議会や予算など、これまでにない仕事をも追われる中、同窓のつながりや諸先輩の指導のお陰で何とか過ごし、二年後に課長職に。経験したことのない重責と緊張感に才口オロ・ドキドキしながらも、労を厭わない頼もしい指導主事に支えられて、二年目が過ぎようとしている。

函館を離れたからこそ、函館のよさや同窓のありがたさを実感できたと思う一方、恩を享受するだけではなく、自分なりに貢献をする術を手探りしていた。

そのような中、今年の正月に市内の小学校で担任していた教え子たちと十六年ぶりに再会した。胸一杯の幸せに満ちた時間であつた。二十代後半の彼らは、立派な大人でありながら、当時と変わらずたまらなく愛おしかった。自ずと呼び起された「先生」としての心持ちは、進むべき方向を一層クリアにしてくれた。

学校は子どもを幸せにするための場所である。そのため、将来社会で自立していく姿を描きながら、目の前の「この子」に必要なかかわりをついに、学校ぐるみで日々積み重ねていく必要がある。

子どもをとことん大切にして、先生方の役に立つ支援と教育活動の質的な充実に資する業務に全力を尽くすことが「恩返し」と信じて市役所に通う毎日である。



## 慈しみの心を持つて

夕陽会函館市支部 顧問 三島俊博

(昭和四十七年卒)

新年を迎えて間もなく、残念なことに大阪で部活顧問の体罰が原因とみられる高校生の自殺事件が発生した。このニュースは世間を揺るがし、教育界に大地震に匹敵する衝撃を与えた。

生徒を自殺にまで追い詰めた指導は、

表面上に見える体罰が原因とされているが、内面に生徒を慈しむ心が指導者にあつたのかどうかに疑問を感じる。体罰を肯定はしないが、どんなに厳しい指導であつたとしても、人は慈しみの心を感じ取つたとき、感謝こそすれ憎しみの心はわいてこないと私は思う。この慈しむ心を教師が持ち合わせ、日常的指導の中で教育にあたることが重要であると感じている。

私は、教育現場を離れて三年になるが、現役時代にすばらしい女性教師と巡り会えた。彼女は不登校である中学生の女子に寄り添い、その原因となる事柄を解決しようと努力していた。その一つが、その子を連れて一緒に銭湯へ行くことだつた。十分なことをしてあげれない親に代わつて、身の回りの世話をしながら指導をした。やがて少しずつ効果が現れ、十分ではないが学校へ足を運ぶようになつてきた。しかし、その生徒が卒業する前の年に、その教師は、残念ながら転勤することになつてしまつた。彼女にあつては、後ろ髪を引かれる思いであつたことだろう。しかしこのことは、生徒

の心の中にしっかりと刻まれ、これから生きていく糧になつたことは間違いない。教育は厳しさだけでなく、慈しみの心を添えた「慈育」でなければならない。

また、先ほどの事件と時を同じくして、生徒が教師を評価する通信簿が大阪で試行された。そこには、日頃生徒指導に厳しい教師の戸惑いが如実に表れていた。

教師の資質を高めるために暗中模索しているのは分かるが、  
またまたテレビ番組に関わつて恐縮だが、先日、外国人から見た日本人のことがテレビで放映されていた。日本人の良さを集計した結果、

一位 やさしい

二位 真面目である

三位 サービスがよい（人を差別する

ことなく誰に対しても平等に）

このことこそ、日本人が長い歴史の中で培つてきた教育の力であり、学校教育のみならず、社会教育も含めて、きめ細かな指導の成果である。

今、教育現場は教師の資質問題絡みで揺れている。研修のあり方・教師の評価、そして免許更新の果てまでも。しかし、歴史的に日本の教育は高い評価を受けてきた。先生方には、誇りを持ち、自分の信念を貫き、慈しみの心を失わぬ頑張つてほしいと願つている。

## 受賞者ご芳名一覧 (敬称略・順不同)



瑞宝 双光 章	堀文孝 (昭和19年卒)
瑞宝 双光 章	畠山慶一 (昭和19年卒)
瑞宝 双光 章	乳井邦衛 (昭和19年卒)
瑞宝 双光 章	八木幸夫 (昭和19年卒)
瑞宝 双光 章	山村賢司 (昭和22年卒)
全国学校体育研究功労者表彰	小松一保 (昭和50年卒)

## 函館市立学校教職員表彰

加藤 潔 (昭和49年卒)	阿部太一 (昭和49年卒)
佐野太三 (昭和49年卒)	平澤雄二 (昭和49年卒)
伊勢昭 (昭和49年卒)	渡邊敬夫 (昭和49年卒)
碇幸信 (昭和49年卒)	熊谷光洋 (昭和50年卒)
藤井壽夫 (昭和49年卒)	藤井良江 (昭和51年卒)
日向稔 (昭和49年卒)	小田桐郁子 (昭和51年卒)

受賞おめでとうございます



感

**堺文孝**

(昭和十九年卒)

昨年、米寿を迎えた高齢者叙勲者の中に入れていただき、瑞宝双光章をいただきました。長生きのごほうびと喜び感謝しておりますが、その後、夕陽会を始め教え子など多くの方々から身にあまるお祝いの言葉をいただきながら恥しさが加わってまいりました。加えて私は、海軍予備学生、海軍少尉の軍歴があり、さきの太平洋戦争で大きな犠牲のあったことを忘れる事はありません。恥ずかしさに加えて申し訳なさも加わり複雑な心境になつたことを、今思い返して居ります。

共あれ、幸に恵まれ長生きできたことをすなおに喜び感謝申しあげたいと思つております。

“ぼけたらあかん” “長生きしなはれ” 東北を旅行したときお土産店で見かけたことばは、私にぴったりで大きく呼びかけられたような気がしました。つぎは、卒寿ですね、と言われています。“ぼけたらあかん”を自分でいい聞かせ、一日一日を大切に頑張つていこうと思つております。有難うございます。



長寿に感謝

**畠山慶一**

(昭和十九年卒)

十センチ角の朱の大日本国璽の玉印が中央に押された勲記と勲章が届けられた。間もなく業者から勲記勲章額と記念品購入の分厚いカタログがきた。どれも高価なものばかり。これは大変なことになつたと恐怖を感じた。が、考えてみると高齢者叙勲というのは、春秋の叙勲者とは性格が異なることは認識していたからいささか気が楽になつた。

教職者については、校長歴があり八十八歳（米寿）の誕生がきて申請によって授与されると聞いて、それまで長く生きてきた証しであるからと有難く戴くことにした。しかし何らかの顕著な功労や功績があつたことの記憶は遠い存在になつていています。

業績かどうか判断らぬが、教職歴は公立校勤務四十年、大学講師十年の半世紀は教師として過ごしてきて、そのうち四校の校長を歴任してきた。函館市では国語教育研究会の会長を勤め、北海道国語教育連盟の副会長ともなり函館市での全道国語教育研究大会の実行委員長として昭和五十三年と五十九年の二回も研究大会を開催しその責務を果たした。これは大変な大仕事であった、が、これもそれも当時の教職員をはじめ関係各位の尽力があつてのことと心から感謝している。

ただ、平成二十一年に函館市文化団体協議会からの「青麒麟章」受賞は、それなりの業績が評価され自らも成し遂げた達成感があり感謝を込めて拝受した。

幸いにして、昭和十九年卒で市内在住の四名が米寿を迎えての受賞者となつたことは以つて慶すべきことであつた。この八十余年の人生を振り返り、このような栄誉に浴することができたのは、夕陽会の先輩や後輩の支えの結果であり、夕陽会なくしては自分の生涯が存在しなかつたと思っている。

よろこびの言葉



人生の万華鏡を見るが如し

**八木幸夫**

(昭和十九年卒)

この度高齢者叙勲の榮に浴し、多くの方々より祝意を頂き有難く、感無量のものがあります。

函師在学中は故林喬木先生に師事、講堂のピアノで練習する傍ら蹴球部にも籍を置き、青春の日々を過ごし、お陰様で神宮大会に出場する事が出来ました。

戦雲急を告げる昭和十九年、繰り上げ卒業となり十月前橋の特甲幹に入校、山砲の操作や乗馬訓練を経験し、弘前に配属され八月の終戦を迎えたのです。

辞令を手にした私は、旭川の日章国民学校へ、その後市内の青柳小を始め三校を転勤、松前の清部小・北日吉・日吉ヶ丘・高盛小の校長を歴任、昭和六十年退職。退職後、幼稚園教育をも体験しましたが、実際に多くの先輩・同僚・後輩に出会い、八十の坂によく到達し米寿を迎えたのです。

前橋の特甲幹時代の戦友、教育視察の欧洲旅行の仲間との楽しい交流、そして全道の音楽教育連盟の先達の諸先輩の指導など忘れません。

この間、夕陽会にも種々お世話になり、思い出は尽きません。昭和五十一年、故高杉留七会長が行動する夕陽会を標榜し、会員の意識向上に努めた事がありました。

文化部を担当した私は故万田氏と相談、夕陽会としての音楽会を計画、昭和五十二年第一回を開催し、続いて書道・美術展を開き、今日各部門共第十回を迎えております。（註――詳細は夕陽八十年史の中で原子部長が述べている）

今年、米寿を迎えるに当たり、その日を待たずに多くの仲間が鬼籍に入りましたが、私は幸い馬齢を重ね、去る一月の音楽会に同期三名揃つて観賞出来、また年一度の新旧音楽研究会員合同懇親会にも出席させて頂き旧交を温め、本当に幸せに思つております。

今の心境は、まさに人生の万華鏡を見る想いです。



## 小学校体育研究会の 代表としての受賞

小 松 一 保

(昭和五十年卒)

この度、全国学校体育研究功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。また、受賞に際しましては、夕陽会をはじめ、皆様から心温まるお祝いの言葉をいただき、誠にありがとうございました。

振り返りますと、これまでの職歴で私の周りには必ずと言つていいほど、体育の先輩・仲間があり、体育科の学習指導はもとより、教師としてのイロハまで大変多くのことを学ばせていただきました。

とりわけ、私の教職人生の道標となつた函館市小学校体育研究会との出会いは、昭和五十六年に函館市で開催されました北海道学校体育研究大会函館大会でのお手伝いが始まりでした。その後、数多くの研究授業をさせていただきましたが、中でも、平成四年の北海道学校体育研究大会函館大会は、当時在職しておりました大森小学校が会場校でもあり、子どもたちと一緒に創ったバスケットボールの授業は、今でも印象深く心に残つております。また、当日までの授業研究では、諸先輩や後輩の皆さんに駆けつけていただき、心温まるご指導・ご支援を賜りましたことは、私の大きな財産であります。

函館市小学校体育研究会は、体育科の学習指導の理論研究と授業実践を重視した研修に力を入れ、これまで幾度となく全道大会の開催あるいは研究発表を行うなど、北海道の学校体育を牽引してきた研究会であります。

このような素晴らしい研究会の諸先輩・仲間とともに、体育科の学習指導の在り方を研鑽できましたことは大きな喜びであり、この度の受賞が研究会の真摯な取組や業績が高く評価されましたことを誇りとしております。

これまで、自分を育て支えてくださいました多くの皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいあります。

結びに、会員の皆様のご健勝・ご活躍と夕陽会のますますのご発展をご祈念申し上げます。



## 感謝を込めて

伊 勢 昭

(昭和四十九年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄誉を得ました。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や子どもたち、地域の方々、教育関係者等々多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものであり、心より深くお礼と感謝を申し上げます。

母校を卒業して以来、その時々に夕陽会の方々に励まされ、温かい手を差しのべていただいたことが今でも思い出されます。

昭和四十九年に教員に採用され、根室市立北斗小学校に赴任した時は、函館を離れ、心細い気持ちでいっぱいになつておりました。

しかし、その時の勤務校や近隣校の夕陽の諸先輩からご指導やご助言をいただき、同窓の温かい気持ちがとてももうれしく感じ、教師としての道に無事に踏み出すことができました。今でもその時のことを思い出し、感謝の気持ちでいっぱいしております。

また、夕陽会との関わりは本部の情宣部長として、会報の発行に携わることができました。特に、思い出として残つていることは、創立九十周年の時に、記念誌作成委員長として記念誌・ダイジェスト版の作成に関わることができました。作成していく感じたことは、夕陽会の歴史と伝統のすばらしさ、そして会員の団結力の力強さが脈々と生きていることを感じました。

母校卒業後はや三十九年、当時の先輩方の温かい気持ちを思い起こして感謝するとともに、後輩の皆さんに 대해少しだけお役に立てるようできる限りの努力をしてまいりたいと考えております。

誠にありがとうございました。



## 支え続けて いたいたことに感謝

藤 井 寿 夫

(昭和四十九年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を賜りました。身に余る光栄に、これまで支えていただきました多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、昭和四十九年四月、教頭法制化の年に福島町立福島中学校に初任、その後、主任制導入、国旗・国歌問題、ゆとり教育開始と総合的な学習の時間、選択教科等、多くの変革に向き合つての教職生活を送りました。また、生徒の非行、校内暴力、いじめ・不登校等の問題も大きなものでした。学習指導要領が改訂される度に、教材研究はじめ、多くの学び直しが求められました。退職が近づいた頃、教育基本法、学校教育法も改正されました。改めて感じたことは、教職にあつた三十八年の間に、科学技術の驚異的進歩と、それに伴う加速度的情報化・国際化の波は社会全体を激変させ、それに伴い生じた価値観の多様化は家庭、地域における子育てへの自信喪失と教育力の低下を招いた事実でした。その結果、これまで家庭・地域が担つてきた子育てへの多くの部分を学校が背負うことになりました。学校においては教職員の長時間勤務と慢性的疲労が続き、退勤が九時、十時は当たり前、翌日になることも度々でした。教職員の懸命の努力にも拘わらず問題は連日数多く起り、ますます教師の時間を奪つていきました。学校が全てを背負つてあげられないことに、家庭、地域は苛立ち、失望し、学校不信は拡大しました。このような極めて厳しい時代ではありました。ですが、教育への情熱に溢れ、心から信頼できる仲間と一緒に実践できることは、私の一生の宝であり、偏に教育への情熱に溢れ、心から信頼できる仲間と一緒に実践できることは、私の一生の宝であり、偏に

また、夕陽会の運営に携わることになりました。学校においては教職員の長時間勤務と慢性的疲労が続き、退勤が九時、十時は当たり前、翌日になることも度々でした。教職員の懸命の努力にも拘わらず問題は連日数多く起り、ますます教師の時間を奪つていきました。学校が全てを背負つてあげられないことに、家庭、地域は苛立ち、失望し、学校不信は拡大しました。このような極めて厳しい時代ではありました。ですが、教育への情熱に溢れ、心から信頼できる仲間と一緒に実践できることは、私の一生の宝であり、偏に教育への情熱に溢れ、心から信頼できる仲間と一緒に実践できることは、私の一生の宝であり、偏に

これからも教育界にとつて厳しい状況は続くと思われますが、夕陽会会員の皆様の直向きな実践が必ずや結果することを祈念し、お礼の言葉いたします。



## 皆様に感謝

碇 幸 信

(昭和四十九年卒)

函館市立学校教職員表彰受賞の報を聞き、「時間のゆとり」がそうさせたのか、深い意味もなく教育委員会規則を覗いてみました。そこには、四条から成る函館市立教職員表彰規則が存在しておりました。第二条が該当項目で詳細は記しませんが、恥ずかしい思いで三項の文面に目を通させていただきました。自らに足らぬ部分を支え・補つていただいた多くの皆様のお力添えに心より感謝申し上げます。

昭和四十九年四月、児童数三十二名の日高管内門別町立正和小学校の勤務を皮切りに、三十八年間の教職生活が始まりました。函館市では、教諭・教頭・校長として、二十二年間お世話になりました。この間、夕陽会及び会員の方々には、紙面では書き尽くせないご厚情とご支援をいただきました。

振り返りますと、新卒一年目、静内町で夕陽会日高支部総会・懇親会が開催されました。現在では考え難い多くの諸先輩が参集され、叱咤激励の言葉をいただいたことに加え、本部より元会長の安島先生がご参加くださり、膝を突き合わせてお話をいただいた時の緊張感は今でも忘れることができません。

そして、今一つは数年前、夕陽会函館市支部長という大役を受け、重責に押しつぶされそうな日々を過ごしたことです。その不安を払拭させ、「組織拡大」「地域貢献」という二つの目標の道筋をつけさせていたいたのも、支部幹事長・役員の皆様、多くの先輩諸氏をはじめとする会員の方々のご協力があつたからこそです。この場をかりまして改めて深く感謝申し上げます。

教職を退いた今、違った視点より函館市の教育にかかることができればと考えております。夕陽会のますますのご発展を祈念し、お札の言葉といたします。

## キャリアに関する現状と今後の取組み

北海道教育大学キャリアセンター函館校 キャリアアドバイザー 橋 口 奈央

出会いと別れの季節がやってきて、古きものは去り新しいものを迎える爽やかな風が流れています。学生たちは各々新しいステージに上り、自分自身の内なる変化と環境の変化に押されて新たなチャレンジを始めます。

キャリアアドバイザーとして民間・官庁を志望する

学生のエントリー・シート添削、面接指導などを行っていますが、その過程で本校の学生たちが過ごす四年間の学生生活をることができます。彼らは、本町・五稜郭・梁川地区という中心市街地に近い本校の立地条件もあって、アルバイト、ボランティア、地域のイベントなどを通して地域の企業活動・文化活動の担い手として多様な経験を積みながら学生生活を過ごし、成長を続けています。彼らの若い力が函館のまちを支えているのです。一方で、このような活動に参加しておらず、学生生活でがんばったことは学業しかないという学生もいます。企業は自分のことにしか興味持てない学生は必要としないません。なぜなら、顧客のニーズに沿ったサービス・商品を創りだし、提供できる人材ではないからです。本校の学生たちは、恵まれた環境を積極的に活用し、時代のニーズに適った人財への成長を目指してほしいと思います。

また、本校の学生の雰囲気・イメージですが、企業の採用担当の方からは「誠実、純粋、それでいない、コミュニケーション力が高い、裏表がない、まじめ、おとなしい、個性がない」などの評価をいただいています。特に、「誠実、純粋、裏表がない、コミュニケーション力が高い」という点は、先輩・上司の教えを十分に吸収することができて成長の余地が大きい人材

であるという採用判断の基礎資質になつております。中にはこれらの資質を備えつつ、独立心が強く、起業家精神に溢れる独特的の雰囲気と魅力を備えた学生がいます。この獅子のような若者たちの力を伸ばすプログラムがあれば、と日々考えています。

最後に本校の学生たちのさらなる成長と飛躍のため、キャリアアドバイザーとして今後取組もうと考えている三つの機会作りについて紹介させていただきたいと思います。

一つ目は、「地域社会との距離感が近くひとの顔が見える」、「歴史・文化が充実しております知名度がある」、「地域課題が山積している」という「函館」の地の利を活かして、他大学では実現不可能な経験を積む機会を創ることです。これができるれば、首都圏の大学に通う学生と戦う就職活動において役立つ強力な武器を作ることができます。

二つ目は、自分自身を信じ、自分自身や社会に責任を持つ意識を育む機会を創ることです。自信や自分自身への責任感を持つことは「生きる力」に繋がります。三つ目は、「ホンモノ」との出会いを通して、様々な葛藤を経験し思考を深める機会を創ることです。葛藤は視野を広げ、思考の深まりは人間性の成長・高まりを誘発します。

彼らの輝く未来のため、私の持てる限りの時間と力を注いで参りたいと思います。夕陽会の諸先輩の皆さん、後輩たちの成長と飛躍のため、どうぞその力をお貸しください。



平成24年度

## 夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会

平成25年2月15日(金)

於ロワジールホテル函館



壇上の受賞者の皆様



テーブルごとの絆



力強いエール 戸倉中応援団



ご祝辞 市長 工 藤 壽 樹 様



ご祝辞 指導監 大 堂 讓 様



受賞者代表 藤 井 壽 夫 様



挨拶 青 木 昌 史 支部長



祝杯 教育長 山 本 真 也 様



乾杯 夕陽会会长 橋 田 恭 一 様



未来の夕陽を担う若人たち

